

乳房炎の予防

酪農経営において、乳房炎、乳牛の事故、繁殖障害の発生が少なければ、多くの農家が安定した経営を成立させていることでしょう。

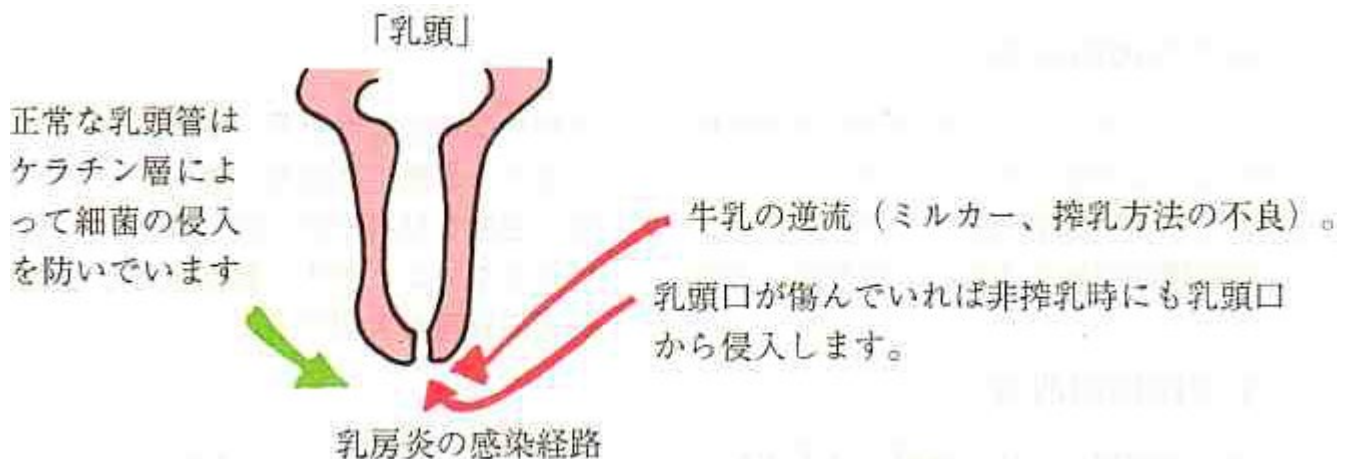
特に、乳房炎に罹ると、泌乳量の減少、牛乳の廃棄、ペナルティならびに治療費の支払、ひいては感染牛の淘汰など大きな損害が生じます。

従って、治療に費用や労働をかけることは経済的にも、精神的にも負担が大きく、また、搾乳時間も多くかかります。

このため、治療よりも予防に重点をおいた取り組みが必要です。その結果が、ゆとりある楽しい酪農経営に結びつきます。

乳房炎の感染経路

乳房炎はほとんどの場合、乳頭口からの菌の侵入によって感染します。そこで、模式的にその経路を示しました。



乳房炎の予防対策

乳房炎の発生要因

ミルクカー 搾乳手順 飼養管理 牛舎環境

1) ミルカーの点検

ミルククロー内の真空圧（乳頭先端圧）が不安定だと牛乳が逆流して乳房炎に感染しやすくなります。クロー内圧が低すぎると、ライナーズリップを起こしやすくなるとともに搾乳が遅くなります。また、高すぎると、乳頭を傷めやすくなります。このように、搾乳には最も適したクロー内圧があり、その変動幅を小さく維持したいものです。

真空圧の変動による乳房炎発生率の差

処 理	乳房炎新規感染率
搾乳中真空圧変動なし	4.7%
搾乳中真空圧変動あり	22.0%

P.D. トンプソンら (1978年)

ミルクカー不良の主な原因

- ◎ クロー内圧を一定に保ちにくい場合とパルセーションの異常が大部分です。

- エアー漏れ
- 配管の径と勾配に見合わないユニット数の使用
- レギュレータの異常
- パルセーターの異常

2) 搾乳手順の改善

- ◎ 伝染性乳房炎の蔓延を防ぐため、搾乳順序にきをつけます。

- 1、薄いゴム（ビニール）手袋を着用する。
- 2、前搾りを行う（乳房炎の早期発見、伝染予防）。
- 3、乳頭消毒、拭き取り、乾燥。
- 4、ミルカーの装着（乳頭刺激から30～60秒で装着して催乳ホルモンが分泌している間に搾りきる）。
- 5、ミルカー取り外し（泌乳量が減ったら即、ミルカー取り外す）。
- 6、即、ホストデッピング（乳頭の3分の2以上を浸漬する、デッピング液は毎搾乳時に取り替える）。

手順の悪い主な事例

- タオルの複数頭への使用。
- 搾乳時に乳頭とライナーが乾いていない。
- ミルカー装着のタイミングが悪い。
- 装着時のエアの吸い込み。
- ミルカーのかけすぎ。
- 乳房炎軟膏注入方法（消毒不十分、挿入が深すぎる）。

3) 飼養管理の改善

ビタミンA、E、セレン欠乏は乳房炎抵抗性を弱めることが知られています。

乳頭には乳頭口の括約筋、ケラチン層など乳房炎防御機能があります。このため、乳頭を傷めないことが重要です。

また、暑熱、高湿度、換気不良、濡れた牛床、急激な飼料の切り替えなどストレスを受けさせないことです。敷料不足を避けること、尻尾の管理も大切です。

4) 牛舎環境の改善

病原菌は水分がなければ増殖できませんこのため、換気をよくして乾燥させることが重要です。寒さ対策として窓をビニールで密閉することは好ましくありません牛舎を暖かくするには、木やブロックを乾燥させて熱を通し難くすることが必要になります。なお、牛舎環境の失敗事例が多く見られます。

- 牛床の凸凹、勾配不足
- カウトレナーの設置不良
- 牛床管理不良

(Extension Leaflet：宗谷南部地区農業改良普及センター、1994～1995)

土壌肥料科

土壌肥料科は、これまで長年にわたり、牧草収量を効率よく増やすための肥料のやり方あるいは粘土質の土壌を改善する方法などを明らかにしてきました。

平成8年度からは、天北地方の特徴である干ばつに関連した研究に焦点を絞りました。

具体的には、干ばつの地域区分図を作成することを目標とします。また、干ばつに対する牧草の生理反応などを明らかにする研究を進めています。このことにより、天北地方の干ばつ被害を回避し、草地生産力のアップを図ります。